

# お米と果物とミルクのふしぎ？体験教室

事業代表者：宇都宮大学農学部 教授 居城幸夫  
構 成 員：宇都宮大学農学部 教授 長尾慶和  
宇都宮大学農学部 准教授 高橋行継  
宇都宮大学農学部 准教授 柏寄 勝  
宇都宮大学農学部 助 教 福森理加

## 1. 事業の目的・意義

附属農場の自然の中で、収穫や動物とのふれあい、収穫物の加工、試食などを通じて、自分たちの食を支える生産現場や植物や動物たちの様子を学ぶことにより、豊かな感性や自然や生命を尊ぶ心を育む。

## 2. 事業の内容

実施内容により安全に実施できる受け入れ可能人数が異なるため、例年通り、お米と果物コースとミルクコースの2つのコースを別々に開催した。お米と果物コースについては、本年度も昨年までと同様に、作物（お米）部門、園芸（果物）部門、機械部門ならびに畜産（ウシ）部門の各専任教員の指導の下で、それぞれの分野の体験実習を行った（詳細は下記参照）。ミルクコースについては、畜産部門に特化した内容で行った。案内と募集は、宇都宮市内小学校へのダイレクトメール、ならびに新聞とホームページへの掲載により行った。「ミルクコース」については、2回合計の定員 20 家族に対して今回も2倍以上の応募があったが、安全性を考慮して抽選により 21 家族（58 名）に限定して受け入れた。「お米と果物コース」については、抽選を行わずに参加希望の 19 家族（53 名）全員を受け入れて実施した。内容の詳細について以下に記す。

お米と果物コース：5月から12月にかけて、約1ヶ月おきに6回開催する。水稻の田植えや収穫、ナシの摘果や収穫、農作業機械体験、乳牛の飼養管理の見学、などを春から秋にかけて季節を追いながら学ぶ。

### ●日程と内容：

第1日 平成26年5月24日(土)

- ・オリエンテーション
- ・お米の苗を田植えしよう！（図1）

第2日 平成26年6月28日(土)

- ・りっぱな赤ちゃんナシ・ブドウを見つけよう！
- ・お米の苗はりっぱに育っているかな？（図2）

第3日 平成26年8月30日(土)

- ・機械の力と不思議を体験しよう！（図3）
- ・ナシやブドウを収穫するぞ！（図4）

第4日 平成26年9月27日(土)

- ・さあ、お米の収穫だ！

- ・お米の収穫に大きな機械が大活躍！

第5日 平成26年11月1日(土)

- ・リンゴはりっぱに育ったかな？
- ・収穫したお米を食べてみよう！（図5）

第6日 平成26年12月6日(土)

- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！
- ・質疑応答コーナー



図1. お米の苗を田植えしよう！



図2. お米の苗はりっぱに育っているかな？



図3. 機械の力と不思議を体験しよう！



図4. ナシを収穫するぞ！



図5. 収穫したお米を食べてみよう！

ミルクコース：6月の週末毎に2日間のコースを2回開催する。乳牛の給餌・搾乳、ヒツジの毛刈り、ウシやヒツジの身体検査、アイスクリーム加工などを体験する。

●日程と内容：

第1回：10家族（27名）

第1日 平成26年6月8日（日）

- ・オリエンテーション
- ・うしとミルクの不思議解説
- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！（図6）
- ・うしにご飯をあげよう！
- ・乳しぼりに挑戦！

第2日 平成26年6月15日（日）

- ・搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！
- ・ヒツジの毛刈りにチャレンジ！
- ・動物のからだ、ヒトのからだ（図7）
- ・質疑応答コーナー（図8）

第2回：11家族（31名）

第1日 平成26年6月21日（土）

- ・オリエンテーション
- ・うしとミルクの不思議解説
- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！

- ・うしにご飯をあげよう！
- ・乳しぼりに挑戦！

第2日 平成26年6月28日（土）

- ・搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！
- ・ヒツジの毛刈りにチャレンジ！
- ・動物のからだ、ヒトのからだ
- ・質疑応答コーナー



図6. 放牧中のウシとのスキンシップ

### 3. 事業の成果

平成26年度も、地域の多くの子供たちとその保護者に農学部附属農場ならではの体験実習を提供し、自分たちの「食」と「農業」の結びつきや、「食」や「農業」を支える「生命」や「理科・科学」について、体験的に理解を深めることができたと考える。最終日のアンケートにおいては、参加した保護者から「食卓を囲んで実習の事が話題になり、お米やミルクなどの食材をこれまでよりも感謝しながら食べられるようになった」、「子どもたちが動物に優しく接することが出来るようになった」などの声が多く寄せられた。これらの体験が、必ずや子供たちの感受性を育くみ、豊かな人生を過ごすための一助となるであろうことを確信している。



図7. 動物のからだ、ヒトのからだ



図8. 搾りたてミルクの試飲(質疑応答コーナー)

#### 4. 今後の展望

長年の実施により、地域からの継続実施の要望が大きく、平成 27 年度も同様の内容で継続して実施する予定である。